

学びの改革実践校 取組紹介

学びの改革支援課

■ 長野市立松代小学校の取組

～一人一人に応じた多様な学びを支援する授業づくり～

長野市立松代小学校では、全員が力を発揮し認め合える学校を目指し、一人一人に応じた多様な学びを支援する授業づくりに取り組んでいる。

取組の一つとして、県教育委員会が作成した信州型ユニバーサルデザイン（別紙）を基に、「温かく受容的な学級」や「困っている子供への合理的配慮」等の観点から、子供の姿について語り合う短時間の研修を繰り返し行っている。研修を通じ、「一人一人の違いや考えを尊重する意識」や、「子供を授業に合わせるのではなく、授業を子供に合わせること」の大切さなどが、職員に共通理解されたことにより、前例踏襲の行事や教師が設定した課題に取り組ませてきたこれまでのやり方を変えていこうという流れが生まれている。

一人一人を尊重し合うことの具体の場面として、学級や学年の枠にとらわれない、縦割りの活動や異学年での交流などを行っている。例えば、運動会の種目に、地面に置かれた紙皿をお互いにひっくり返し合うオリジナルの全校競技を6年生が考案した。当日は、1年生から6年生が集まった縦割りチームごとに作戦を考えて試合に臨むなど、学年を越えて声をかけ合う姿が見られた。

また、授業を子供に合わせるものの具体として、各自の興味・関心によりテーマを設定して追求する時間（自学自習ロングの時間）を年間20回行っている。ある児童は、野菜作りに興味をもっていたので、この時間に学校の畑を利用し、祖父の指導のもと、ほうれん草栽培に取り組み、クワを使った畝づくりから始め、収穫まで一人でやり抜いた。

これらの例のように、全員が力を発揮し、認め合える姿が様々な場面で見られるようになり、一人一人の多様な学びを支援する授業づくりの成果が現れてきている。



6年生の考えた運動会の種目に取り組む

■ 松本市立筑摩野中学校の取組

海外の生徒との交流を通して主体性を育む授業づくり～英語科の取組を中心に～

松本市立筑摩野中学校は、教育理念に「聴く学校」を掲げており、対話の質を高めることを教育課題に位置付け、他者との関わりの中で学びを広げ、深めていく生徒の姿を願い「1人1台端末・ICTを活用した、カリキュラム・マネジメントと授業改善」をテーマに学びの改革に取り組んでいる。

英語科では、生徒の英語学習に対する意識を把握するべく、2学年全員にアンケートを実施した。その結果、「英語の勉強は大切だ」と思う生徒は8割を超えていたものの、「将来積極的に英語を使うような生活をしたい」や「外国の人と英語で話したい」と思う生徒は全体の3割から4割と低く、英語を学習する意味が見いだせていないことが明らかになった。このことから、実際に英語を使って本物のコミュニケーションをする機会が必要であると考え、1人1台端末を活用し、オーストラリアの生徒とオンラインでつながり、直接やり取りをする機会を設けることにした。

交流活動を始める前には、不安を感じていた生徒の様子もあったが、オンラインでの交流学习が進むと、相手の言うことが聞き取れたり、文法的にやや不正確でも即興的に会話してやり取りが成立したり、相手の生活の様子の理解が進んだりしたことで、活動に充実感や満足感を得た生徒が多かった。

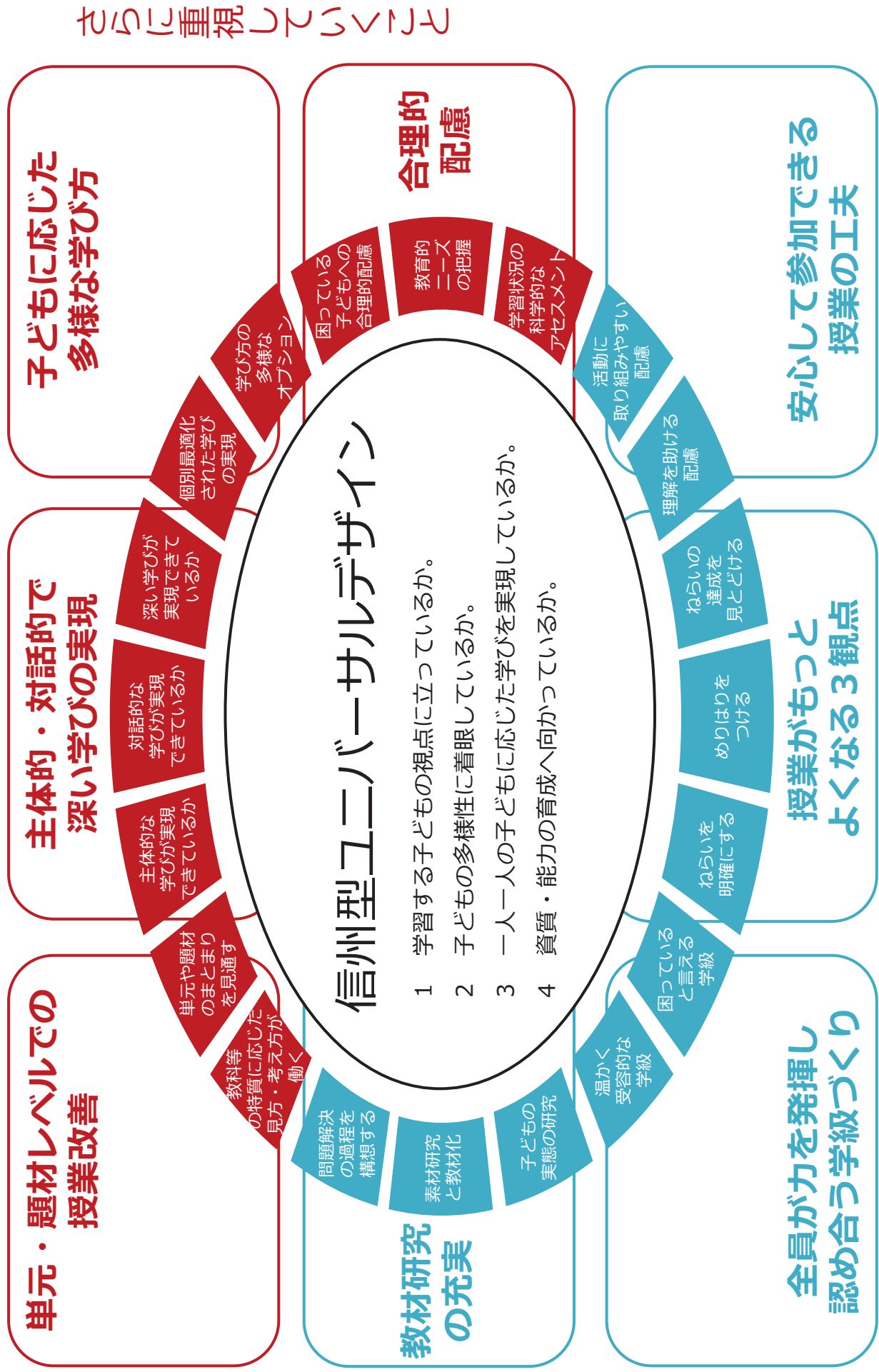
この学習を通して、「英語は実際に使える」という実感を持ち、日常の英語学習に主体的に取り組む姿が明らかに増えてきている。教科会では、このような交流活動が、さらに継続的に全学年で実施していけるよう、ALTとも相談しながらカリキュラムの見直しを行い、準備を進めている。



オンラインで海外の生徒と会話をする様子

信州型ユニバーサルデザイン

「信州型ユニバーサルデザイン」は、長野県の先生方の経験に基づく知恵と科学的に実証された効果的な指導方法を組み合わせた、全ての子どもが自分らしく学ぶことのできる授業づくり、学級づくりの基盤となる内容を、長野県の先生方と共に創り上げていくものです。



さらに重視していきま

これまで重視してきたこと